

ボローニャ・プロセスとポルトガルの大学図書館における学習支援機能の発展*

井上拓(学籍番号 200721517)

研究指導教員:溝上智恵子

副研究指導教員:平久江祐司

1. はじめに

現在EUにおいては、高等教育の競争力を強化する目的で、ボローニャ・プロセス(Bologna Process)という計画が建てられ、その取組みが積極的に推進されている。ボローニャ・プロセスにおいては、学習成果(ラーニング・アウトカムズ)の設定を適切に行うことが目指されている。このような学習成果を志向する高等教育改革を実質化していくにあたっては、学生の自主的な学習を支援する学習の場の確保・整備が必須であり、大学図書館の学習支援機能にも大きな影響を与えていると考えられる。

そこで本研究では、ボローニャ・プロセスの進展における高等教育の実質化の実態を明らかにする。特に大学図書館の学習支援機能に着目し、ボローニャ・プロセスの進展がそれらに与える影響について考察する。具体的な対象国はポルトガルとし、EUの高等教育政策が与えた影響を、ポルトガルの大学図書館において検証する。

2. 文献調査

まず、文献調査により、EUにおける高等教育政策の概歴およびボローニャ・プロセスの概要を把握し、ボローニャ・プロセスと大学図書館との関わりを検証した。

ボローニャ・プロセスにおいて大学図書館への直接の言及は見られないものの、学習成果や生涯学習を重視するボローニャ・プロセスの実質化に際して、EUの大学図書館では、学生が自立的に問題解

決を行うための学習活動を支援するサービス・設備が必要であるとの認識が高まっている。

一方、アメリカの高等教育においても、学習成果への関心が高まっており、現在多くの大学がそれぞれのミッションに基づく学習成果の開発と育成に乗り出しているが、特に大学図書館によるアプローチの1つとして、新しいタイプの学習支援スペースである「インフォメーション・コモンズ」が挙げられる。

インフォメーション・コモンズとは、一般的に電子的資料やコンピュータ資源、情報ネットワークなどの環境を整備し、グループ学習などの学生の自主的な学習、そしてそれを支援するための人的リソースに特に重点が置かれている学習スペースのことをさす言葉である。インフォメーション・コモンズの明確な定義は未だに存在しないが、様々なリソースにアクセスできるデジタル環境・オンライン環境、グループ学習室、そして、司書、もしくは司書とコンピュータ・サービス職員の両方が配置されたレファレンス・デスクが主な特徴であり、デジタル環境と学生の自立的学習の支援を重視した学習スペースであると定義される場合が多い。

ボローニャ宣言をきっかけとして設立された欧州高等教育質保証協会(European Network for Quality Assurance)が発表した『欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン』においては、学生は学習を支援するための「図書館やコンピュータ等の物的リソースから、チューターやカウンセラー、その他のアドバイザーのような人的支援まで」多様なリソースを利用すべきであると述べているが、インフォメーション・コモンズという概念には、これらがすべて内包されている。このことから、ボローニャ・プロセスの実質化に対する回答として、インフォメーション・コモ

*“Bologna Process and Development of Learning Support Functions in Portuguese Academic Libraries” by Taku INOUE

ンズの導入は十分に考えられることであろう

そこで、本研究では、先行研究の内容を検討し、インフォメーション・コモنزの定義を行ったうえで、その概念を軸に、ポルトガルにおける大学図書館の実態を検証することとした。

3. 質問紙調査

プレ調査として、ポルトガルの全大学図書館 139 館に対し、全体的な傾向を把握するための質問紙を郵送した。この質問紙調査の結果から、「ポルトガルの大学図書館においてはインフォメーション・コモنزのようなモデルは普及してはいないものの、ボローニャ・プロセスの進展に際してはグループ学習室や電子的資料へのニーズの高まりがあり、図書館はそれらに対する対応を行っている」という仮説を立てた。この仮説を実証するため、現地での事例調査を行った。

4. 事例調査

事例調査は、アルガーヴェ大学中央図書館、セトゥーバル・ポリテクニク教員養成スクール図書館(以下 CRE)、リスボン新大学科学技術学部図書館、およびポルトガル・カトリック大学ジョン・パウロ 2 世図書館の 4 館を対象に行い、本研究におけるインフォメーション・コモنزの定義に従って、(1) 電子的資料及びそれらにアクセスが可能な設備、(2) 人的支援その結果、(3) 自律的・主体的な学習を支援するための設備、(4) 大学内外の他部局との連携に着目し、図書館員に対するインタビュー等を行った。その結果グループ学習室や情報ネットワーク環境、電子的資料などの学習支援機能が整えられているという動きは各々の図書館でみられたものの、ボローニャ・プロセスの影響は、現段階では機関の教務部門において見られるものであって、図書館への直接的な影響はまだ先であり、現在の整備状況はボローニャ・プロセスの影響ではない、と図書館員には考えられているということが明らかとなった。

また、ポルトガルにおいてインフォメーション・コモنزはまだそれほど普及していないことがわかったが、今後ボローニャ・プロセスが進展するにつれて、

名称は異なれどもインフォメーション・コモنزへと昇華していきそうな芽を、特に CRE において見つけることができた。CRE のコンセプトにはインフォメーション・コモنزとの共通点が多く見受けられ、また、図書資料以外にも、多様なリソースや設備を CRE 内の異なる部局がそれぞれ管理している。これらのリソースや設備は授業や課題等で使用されているため、大学の教員や他部局との連携を行いやすい環境にあるといえる。これらの設備を図書館が管理していることは、今後、インフォメーション・コモنزの重要な要件である大学内の他部局との連携に広がっていく可能性を感じさせる。

5. まとめ

本研究では、ボローニャ・プロセスにおける質保証の観点、とりわけ学習成果への重要視が、ボローニャ・プロセスと大学図書館とを繋ぐキーワードであることを明らかにした。また、ボローニャ・プロセスが大学図書館の学習支援機能に与える影響の実態を、アメリカの大学図書館における新しい動きであるインフォメーション・コモنزを軸としてポルトガルにおいて検証し、図書館員にその自覚はないものの、電子的資料や設備、利用者教育、そしてグループ学習室にその影響が見られることが明らかとなった。さらに、インフォメーション・コモنزにはポルトガルにおいてはまだそれほど普及していないものの、今後インフォメーション・コモنزへと発展していきそうな萌芽を指摘することができた。

文献

- [1] Beagle, D. *The Information Commons Handbook*. Neal-Schuman Publishers. 2006.
- [2] Ferreira, M. and Abrantes, J. *O Centro de Recursos numa Escola Superior de Educação - Contributo para a definição da sua filosofia, da sua organização e da formação dos seus responsáveis*. Gabinete Coordenador das Actividades do Ensino Superior de Curta Duração. 1979.